

人の立場で考える

山口県 井関小学校 3年 三好 瑚音

わたしには2才の弟がいます。弟はあまえんぼうで、お母さんのことが大好きです。いつもお母さんといっしょにいたがるし、だっこしてほしいです。そんな弟はとてもかわいいけれど、ときどきお母さんを困らせることがあります。

ある日、わたしとお母さんと弟で、スーパーに買い物に行きました。弟がぐずぐずなき始めました。お母さんは買い物が思うようにできなくて、かなしそうな顔をしていました。だから、わたしは弟をなかせないために、弟の乗ったカートをおしてあげました。すると、弟はなきやんで、今度はキャッキョとよろこびました。お母さんもそれを見て、とてもうれしそうな顔になりました。わたしもとてもうれしくなりました。

すると、そばにいたおじいさんが、

「うるさい！だまれ！」

と、わたしたちをおこりました。さいしょ、わたしはどうしておこられたのか、わかりませんでした。弟もお母さんもよろこんでいたのに、このおじいさんはどうしてこんなにおこっているのでしょうか。わたしは知らないおじいさんにおこられて、はずかしさと悲しさでなみだが出ました。

お母さんはないているわたしに、

「ことちゃんがお母さんと弟をよろこばせるために、カートをおしてくれたのはとてもいいことだと思うよ。でも、スーパーなどのみんながいる場所では、ほかの人のことも考えないといけないんだよ。お母さんもそのことに気づけないでごめんね。いっしょにあのおじいさんにきちんとあやまろうね。」

と言いました。そして、お母さんとわたしはあのおじいさんに、

「うるさくしてごめんなさい。」

と、あやまりました。

わたしは、その夜一人で考えました。わたしがやったことは、弟にとってうれしいことだったけど、スーパーなどの多くの人があつまる場所では、多くの人の気持ちも考えなければいけない。それがやさしさや親切につながることで、気がついた。

人は一人では生きていけない。だからこそ、ほかの人の気持ちを考えて行動しないといけない。それが、みんなにとってうれしい気持ちになれるように。これからいろいろな場所で、そういう場面で、そういうことを考えなければならないと思う。いつも、ほかの人の気持ちによりそう自分になりたいと、わたしは思う。